

# 校友会報

日本大学工学部校友会  
第81号 平成30年3月1日



## INDEX

- ごあいさつ ..... 2
- 平成29年度第60回通常総会 ..... 3
- 第37回「母校を訪ねる会」を開催 ..... 3
- 「母校を訪ねる会」校友茶会 ..... 5
- 校友会キャンパス散歩ツアー ..... 5
- 校友会キャンパス散歩ツアーのガイドを体験して ..... 6
- 平成29年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して ..... 7
- 支部活動 ..... 14
- 校友会組織 ..... 17
- 日本大学工学部が推進する産学官連携活動 ..... 18
- 第60回日本大学工学部学術研究報告会 ..... 20
- 校友レポート・若葉マーク頑張り記 ..... 21
- 工学部NEWS ..... 22
- 校友会NEWS ..... 23
- 平成30年度通常総会通知・第38回母校を訪ねる会 ..... 24



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページをご覧ください。



70号館：地下1階・地上9階建て、40教室・最大収容人数4,870人、他に学習支援センター、大学院室、並びに、多くのフリースペースなどを設置。環境に配慮したエコキャンパス。

## ごあいさつ



工学部長 出村 克宣

平成 30 年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。加えて、日頃より、工学部の教育・研究活動に数多くのご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、工学部は昨年、創設 70 周年を迎えました。ご存知の通り、工学部は昭和 4 年 3 月に東京・神田駿河台に設置された日本大学専門部工科を前身とし、昭和 22 年 3 月、専門部工科が郡山市に移設された時を創設としています。その後、昭和 24 年に日本大学第二工学部となり、昭和 41 年に学部名を工学部に変更しました。以来、創設の趣旨にもとづいてエンジニア育成にあたり、工学部卒業生・工学研究科修了生は 58,000 名に達し、校友諸氏が国内外で活躍されておりますことありがたく、うれしく存じます。

平成 11 年には、工学部の教育・研究のキーワードを「ロハス：健康と持続可能な生活様式」とし、工学技術の側面からそれを支える「ロハスの工学」が工学部の代名詞となっています。その実践を目指して、民間企業、外部研究機関、郡山市など地方公共団体との産学官連携による共同研究・地域貢献活動が活発化しています。

一方、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故の直後から、教職員はもとより、校友諸氏をはじめとする多くの皆様のご支援を得て、教育・研究環境の復旧を図ることができました。ここに、創設 70 周年を経て、新たな年を迎えられましたことを改めて感謝する次第です。

復旧を進める中で、「ロハスの工学」はこれからの社会に貢献する工学のあり方であることを再認識致しました。工学部を郡山の地に導いた先人の思いと一致するものであり、これからも、本学部の教育・研究の伝統を継承しながら、教職員一丸となって、我が国の未来を担うエンジニアの育成に邁進してまいります。なお、創設 70 周年記念番組のダイジェスト版が工学部ホームページでご覧いただけます。

結びに、校友諸氏のご健勝とご活躍並びに、工学部校友会の発展を祈念し、新年の挨拶と致します。



校友会会長 中野 伍朗

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は校友会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

我が工学部校友会もそのお蔭を以ちまして、今年で設立 60 周年を迎えることとなりました。校友会員も約 6 万人となっております。学部校友会ならびに支部活動を通じ、会員相互の交流も活発に行われており、校友の絆はますます深まりつつあります。

平成 29 年度におきましては、母校を訪ねる会、学部祭への参加事業として校友会キャンパス散歩ツアー、校友茶会の開催、就職支援として電気主任技術者国家試験対策講座の開講や校友企業の情報提供、また就学支援として給付型奨学金の交付、文武両道を目指す学生への課外活動支援として支援金贈呈、校友への支援として工学部学術研究報告会参加校友への経済的支援などを行って参りました。

これからも引き続き、給付型奨学金制度の充実や学部祭への協賛、母校を訪ねる会、就職対策などの側面的支援を通じ、母校の更なる発展に寄与して参る所存です。特に「日本大学校友会正会員の拡充」に関しては積極的に取り組んで参ります。

そして全国の校友の皆様のご理解、ご協力を頂き、今後も前向きな姿勢で開かれた校友会を目指して参ります。特に若い校友の皆様にも大いに参画・活動して頂ける環境作りを整備して参ります。

また、出村克宣学部長を始めとして、工学部教職員の皆様の平素からのご支援、ご協力に感謝申し上げ、これからも工学部ならびに工学部校友会が連携して車の両輪となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、校友の皆様におかれましては、今後とも工学部校友会に対して変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本大学と工学部の更なる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 平成 29 年度 第 60 回通常総会

平成 29 年 4 月 22 日(土)、13 時より、工学部 62 号館 3 階大講堂にて平成 29 年度第 60 回通常総会が開催されました。

議事に先立ち議長に脇山亨治氏(建 29)、議事録署名人に土岐悦雄氏(建 20)、菅家和洋氏(土 24)、書記に蔭山寿一氏(建 28)、千代貞雄氏(化 30)がそれぞれ選出されました。長澤幸二総務委員長(電 20)、水上崇財務委員長(建 22)により行われた報告事項、承認事項ならびに議案事項はそれぞれ賛成多数で可決されました。

また、本年は役員改選が行われ、3 期 9 年に亘り会長を務められた手塚公敏氏(土 16)が会長を退任するこ

とになりました。新会長に中野伍朗氏(化 16)、新幹事長に土方吉雄氏(建 23)が承認され、校友会の新体制のスタートとなりました。

総会終了後の懇親会は日本大学関係者を始めとした来賓をお迎えし開催致しました。應援團による演舞披露なども行われ、大変盛大な会となりました。

通常総会、懇親会を通じて年一回、校友の皆様には是非、母校を訪れていただきたいと思います。また、本年は校友会 60 周年の記念行事として、懇親会を開催する予定であります。校友の皆様も旧友との再会や、恩師にお会いする等のきっかけづくりとして、多数のご参加をお待ち申し上げております。



## 第 37 回「母校を訪ねる会」を開催



第15回：昭和42年卒

第67回北桜祭(工学部祭)の最終日にあたる平成29年10月29日(日)、「第37回母校を訪ねる会」が開催されました。今回は225名の校友にご参加をいただきました。訪れた皆様の中には、懐かしい旧友や恩師に会い、学生時代を思い出される方、母校の発展に感激された方等、充実したひとときを過ごされた様子でした。

今年の應援團は学ランではなく、新たなユニホームで演舞に臨みました。新鮮に感じられる方もいらしたのではないのでしょうか。

参加された方には、雨の中をお越しいただき御礼申し上げます。

次回は、16回、26回、36回、46回、56回卒業生の皆様が対象学年となっておりますので、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。



第25回：昭和52年卒



第35回：昭和62年卒、第45回：平成9年卒、第55回：平成19年卒

## 「母校を訪ねる会」 校友茶会

今年度も母校を訪ねる会では恒例の校友茶会を開催しました。  
訪れた皆様には、茶道部の学生による一つ一つ気持ちを込めたお作法で、お点前したお茶と季節の和菓子が振る舞われました。  
訪れた方から、「丁寧なおもてなしに、和みました」「これからも伝統として続けてください」という嬉しい声をいただきました。  
当日は日本の伝統文化「茶道」の輪を広げる貴重なひとときをお過ごしいただけたのではと思います。



## 校友会キャンパス散歩ツアー

10月28日、校友会キャンパス散歩ツアーガイドとして、初めてお手伝いいただいた、社会保険労務士法人に勤める情報工学科校友の吉田さんから感想をいただきました。



### 感動の連続 ～校友会キャンパス散歩ツアー～

情報4回卒 吉田 昌弘

今回、ツアーガイドとして、先輩方のご案内と撮影記録をさせていただきました。桜並木を見に学内を散歩することは何度ありましたが、近年行われている研究内容や学内の新施設などはまったく知らず、ガイドと言いつつ1人のOBとして興味深く学内を見学いたしました。

ツアーは2時間。「校史資料室」「ロハス工学研究の各実証施設」「70号館展望フロア」、そして「昨年竣工した新学生寮」を巡る行程で、いずれも私にとって感動の連続でした。校史資料室では、昭和20年代から続く貴重な資料類だけでなく年代物のタイプライターに心奪われました。実際に使われていた機器を展示することで未来の学生達にも先人の想いを伝えたいのだと感じました。またロハス実証施設は私が一番驚かされた見どころで、地中熱や汚水を有効活用する研究の他、水道電気不要で排水を出さないトイレを見せていただきました。非常時にも使えるこのトイレは東日本大震災被災地の福島だからこそ成し得た研究成果なのだと思います。その他、70号館最上階からの眺めや新学生寮の快適さは、私の言葉では伝えきれないほどの素晴らしさでした。

今回案内させていただいて、学生当時の記憶を思い出すだけでなく最新の技術に触れられる良い企画だと感じました。OBやOGだけでなく工学部を志望する受験生にも機会があったら、是非参加していただきたいものです。



ロハスの道路



70号館展望フロア



ロハスの家3号内部



資料室(機器類)



資料室(歴代学部長写真)

# 2017 校友会 キャンパス 散歩ツアーの ガイドを体験して



大野さん・明石さん・尾澤さん・久保さん

10月28日・29日、ツアーガイドとして建築学科土方吉雄先生の都市計画第一研究室の学生さんにお手伝いいただき、当日の感想をお聞きしました。

## 建築学科

都市計画第一研究室 久保 美樹

私は今回のキャンパスツアーにアシスタントとして参加しましたが、初めて知ったことや入った場所がたくさんありました。ロハスの家や、校史資料室は、普通に過ごしていれば通り過ぎるだけで、きっと卒業まで行くことはなかったと思います。また、普段は全く接点のない他学科の研究について知ることができ、他学科への興味・関心や、自分が工学部の一員であるという想いを深めることができました。異なる年代の方との関わりもとても貴重でした。私はキャンパスツアーに参加してとても良かったと思っています。今回の発見や感想を周りに広め、たくさんの方がもっと工学部全体のことに興味をもってくれるよう努めたいと思います。

## 建築学科

都市計画第一研究室 尾澤奈津美

私は今回のキャンパスツアーを通し、私自身も改めて日本大学工学部の歴史を知ることができました。先輩方と順路を歩きながら、昔のキャンパス風景や思い出を聞かせてもらえました。そのなかで私が普段の教室棟として利用している70号館が昔は砂のグラウンドであったことには驚きました。またロハス関連の内容をメインにした順路だったので、他学科の研究やキャンパス内の建築物を学べるとてもいい機会でした。

## 建築学科

都市計画第一研究室 明石 大佑

今回、私はサポートという立場での参加でしたが、始めてみればOBの方々と一緒にツアーを楽しんでいる自分がいました。

まず、初めに行った校史資料室は、今まで外から何回か見ることはありましたが、中に入ったのは初めてで、展示されている過去の実験道具や、日大周辺の歴史等に釘づけになってしまいました。すると、ツアーの参加者の方から、「これは、昔自分たちが行った実測なんだ」「この頃はこんな道具を使って実測をしたりしていたんだ」というようにその頃の様子を事細かく教えて頂き、見るだけでは感じられない事を知ることができました。

そして、ロハスの事業についての見学では、普段関わることのない他学科の研究内容について詳しく知ることができ、「あーなるほど！これが実用化できたらすごいだろうな」など、思うことはたくさんあり、とても勉強になりました。

今回のツアーは私にとっても本当に有意義でとても勉強になった2時間でした。

## 建築学科

都市計画第一研究室 大野 勝寛

キャンパスツアーでは自分が普段行かない場所を訪問することができ新鮮でした。卒業された先輩OBの知識が豊富で会話しているだけで自分の知識が増えていくような気がしました。資料室は初めて行く場所で古い道具があり、OBの先輩方に道具の使い方や昔の学部について教えていただき、良い経験になりました。見学する場所に向かって歩いている最中も、昔はどんな雰囲気だったのか、大学施設がどのように変わったのか知ることが出来ました。先輩諸氏と関わることはいい経験だし、このような機会が増えるといいと思いました。2年生や3年生の時にこういった機会があれば就職に活かしたり、今後の学生生活が有意義になると感じました。

## 平成29年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

### 工学部70周年と 母校を訪ねる会に参加して

建築15回卒 疋田 躬矩

卒業後50年の今回の母校を訪ねる会は、平成19年から2回目の参加となります。前回の参加時には、在学時のキャンパスの面影が多少残っていましたが、それから10年で大きく様子が変わったことと思い、先ず前日の28日の校友会キャンパス散歩ツアーに参加させて頂きました。

校史資料室からスタートしました。ここでは70年間の工学部の様々な歴史資料が展示され、一角には、本年9月に私から寄贈させて頂きました当時着用していた背番号18番の硬式野球部のユニホームと昭和41年の夏休みに建築学科の1年生から4年生13名で実測し、翌年国の重要文化財の指定を受け、現在山形市の霞城公園に移築公開されている木造洋式建築の旧山形市立済生館病院本館の実測図集が展示に加わっていました。

続いて、ロハスの家3号棟、ロハスのトイレ、ロハスの橋について中野和典教授や院生の皆さんから丁寧な説明をして頂きました。時代が必要としている先進技術の実用化に向けて熱心に取り組まれている様子に大いに感銘致しました。

また、70号館の展望室からはキャンパス全体を眺めることができ、在学当時の面影から一変した光景に、素晴らしい学びの環境が整備されていることが分かりました。

最後に、新学生寮「バンデリアン郡山」を案内して頂き、また学生時代に戻りたい感情に駆られました。

2時間の「じっくりコース」の散歩ツアーはあっという間に過ぎてしまいました。

夕方6時からは郡山ビューホテルを会場とする同級会に参加しました。開催には福島県在住の級友のお骨折りを頂き、出村克宣工学部長、小栗治男先生のご臨席を賜り、同級生21名が参加しました。最初に記念写真の撮



影、発起人代表の八町雅康君の挨拶で始まり、卒業後50年間の話は尽きることがありませんでした。

翌29日は、いよいよ「母校を訪ねる会」です。10時に受付を済ませ、記念撮影の時間を待ちました。記念撮影は残念ながら雨天のため本館前中庭ではなく、70号館1階で行われました。この階や2階では「ミニオープンキャンパス2017」などが開催されており、小中学生を始め多くの若者が集まっていました。

12時から懇親会が始まり、出村克宣工学部長から工学部70年の歴史、今年春の卒業生の就職率が、日本大学中2番目のほぼ100%に近い成果を収めている等のお話がありました。続いて中野伍朗校友会会長他の挨拶があり、工学部、校友会が一体となり本学発展のため努力をされていることを実感致しました。

会場では200名を超える参加者が、それぞれの卒業学科、回ごとに集まり、話が盛り上がっていました。最後に力強く校歌斉唱、万歳三唱をして閉会となりました。

70周年を期して母校工学部の更なる飛躍をご祈念申し上げます。

### 卒業50年と同期の絆

工化15回卒 角 健

平成29年度「母校を訪ねる会」のご案内を頂き、心からお礼申し上げます。

母校訪問には、大学生生活時代の自分に戻される不思議な力を感じるものです。

卒業後50年の母校訪問が同期の友との最後の機会だと思うと、郡山市で過ごした4年間の学生時代の生活が懐かしく思われ、訪問時は、記憶を頼りに郡山市内を少し歩いてみようと思いにしていた。

早速、代表幹事をお願いしている郡山在住の山崎儀一君と連絡を取り、恒例になっている交流会について、願わくば会津若松の観光と東山温泉1泊の旅が希望であると伝えて、山崎君の企画に託した。

28日、新函館北斗駅から北海道新幹線に乗車、東北新幹線に乗り継いで深まりゆく紅葉に目を奪われながら、午後3時頃に郡山駅に到着。

駅前を静かに見渡すと、賑やかで活気に満ち溢れていて昔日の街並みを思い浮かべるが、どこがどうだったか様変わりしていた。アーケード街の「珍満」のタンメンの味と香りが不思議に蘇った。立ち寄って食べる事にした。

30分ほど散策して、皆が待つ駅近くのホテルで10名が合流。その夜はホテルの懇親会で懐かしい会話が進み



「母校訪問」には各人各様に思いを抱いての参加だった。

29日「母校を訪ねる会」早朝から雨で風も吹いていた。9時に駅前から、用意されたバスは満席で、混雑している市街を通り、懐かしい阿武隈川を渡って母校に着いた。

受付後、茶道部のお出迎いで、抹茶と和菓子の「おもてなし」は嬉しかった。キャンパス内の散策は、雨天で諦めて館内の展示を見学した。

東日本大震災の教訓から、避難所の生活環境に問題意識を持って、パネルと模型にした研究発表会には聞き入りました。

記念撮影には、12名が集い雨天のため70号館の1階。その後の懇親会は、62号館1階食堂で出村克宣工学部長、中野伍朗校友会長等の挨拶。アトラクションでは、応援団による演舞があり、日大では唯一工学部にだけ後輩に受け継がれていると報告された。その後、会津若松へ向かった。

工化の同期は、学生60名位でしたので、友情の絆は強く、還暦を迎えた平成16年の時、金森、柏木両君が呼びかけ人で、6月の山梨県に有志が集まり、ゴルフと石和温泉を満喫した。当時は久しぶりの再会とあって、仕事上のこと、家族のこと、そして今後、毎年の交流会「日大アカシア会工化15回生」を始めようと話が進み総意で決定。

この事業は、本年まで継続していますので、その足跡を振り返ってみます。

平成17年の幹事は小生が受けることになった。北海道が舞台、函館では生きイカ定食、洞爺湖の噴火した有珠山ロープウェイ、登別クマ牧場、ジンギスカンで満腹。

平成18年は、山形県の上山温泉、出羽三山、舟川下り等、毎年旅行を計画して友情を深めてきた。その後の交流会を報告します。

平成19年10月28日：「卒業後40年の母校訪問」は、磐梯熱海「万葉の宿・八景園」に前泊して、母校には21名が参集した。

平成20年11月7日～9日は、彦根城～京都仏閣紅葉めぐり。

平成21年10月24日～25日は、飛騨高山～世界遺産白川郷散策。

平成22年11月6日～8日は、金沢市～能登半島、

輪島漆器・朝市。

平成23年10月29日～11月1日は、つくば宇宙センター～紅葉の日光～房総半島。

平成24年7月10日～12日は、北海道の味覚～旭山動物園～田園の美瑛・富良野。

平成25年11月6日～8日は、隅田川屋形船～東京スカイツリー。

平成26年9月18日～20日は、岐阜長良川の鵜飼～名古屋城～トヨタ館。

平成27年10月19日～21日は、有馬温泉～六甲山ロープウェイ～神戸港クルージング。

平成28年10月22日は、東京丸ビル「灘の酒と和食“御影蔵”」

平成29年10月28日～30日は、「母校を訪ねる会」～会津若松～東山温泉

このように、同期の学友と共に続けてきた交流の旅は、お互いに健康、体力、気力の不安さを抱える世代になって、これからの人生を如何に遊楽に過ごし、家族に迷惑をかけない生き方が話題になるなど有意義に感じている。

30年は、長野県を予定。代表幹事は、勝野君にお世話になります。

## 北桜祭の印象

土木25回卒 田村 信彦

母校を訪れるのは10年ぶりです。駐車場から校内に入ると『学校もだいぶ変わったなあー』と、出る言葉は10年前と同じです。今年の北桜祭はあいにくの雨、そんな中で校内道路のあちこちで案内してくれる生徒が雨の中に立って声を掛けてくれました。彼らの仕事は地味な仕事ですが、その人たちのお陰で迷わず進むことができました。薄い雨具1枚で立っている姿に、本当にご苦労様でした。私は土木工学科に昭和48年から52年までお世話になりました。今回の北桜祭を見学してみると、研究発表のブースの中で「災害時の避難場所」を研究成果としたグループがありました。避難した人のプライバシーを守る避難所の配置計画がテーマでした。1



次避難から日にちが経てくると避難者は自主的にプライバシーを守る生活へと変わっていきます。そのプロセスを整理すると、早期の段階からプライバシーを守る配置計画が必要と考えられ、雑踏とした避難所の配置を並び替えて居住空間を作り出すことでした。先日テレビ放送された映画のあるシーンにこんな言葉がありました。『避難とは住民はすべての生活を捨てることだ』これは昨年大ヒットした「シン・ゴジラ」からです。私も市役所の建設部門に勤め多くの災害復旧に携わってきましたが、避難所のあり方については部署が異なり携わることはありませんでした。自然災害の多い日本において、災害に立ち向かうのは「避難所のあり方を工夫する」これも重要なポストであり、それを後輩たちが学び、やがてそれを実践しなければならないときが来る…。将来が想像できる印象が残ったブースでした。難しい話ばかりではありません。屋外の露店商はお祭りを盛り上げる最も有効な手段であり、ここに多くの学生が参加して、自分たちの意気込みを現していました。あいにくの雨の中で、残念ながら生きのいい若い衆の声はほとんど聞くことができませんでした。しかし露店商で祭りを盛り上げる若い人の活力は、卒業後の世の中にあっても役立つものです。雨をひとつの糧として『ならばどうする』を考えてほしいです。「地方を活気づける」とか「人通りが少なくなった商店街を再生する」とか「若者のUターン」などは地方の大きな課題です。役所の企画部門でこういった課題に取り組む人の中には、大学の学園祭で露店商を大いに盛り上げた人が結構いたりするものです。29年度の日本大学北桜祭は、私はこうして参加して、そして去りました。

## 学内見学会と同級会を終えて

機械 25 回卒 橋本 純  
(旧姓：永田)

卒業して 40 年目に同級生と再会できたことは、世話係として「うれしい」の一言に尽きる。同級会開催にあたり当時をふり返る最も良い場所は、大学であることに気づき、初めに学内の 5 か所を見学し、その後に同級会を学内のスカイレストラン隣にあるミーティングルームで開催することにした。

最初の見学場所である機械製図室には、ドラフターが配備されている。履修当時は T 定規を使用して、遊佐祥郎先生のボルトの図面から始まり、天井走行クレーンの設計製図で終わったことなどを思い出していたようである。資料室では、残念ながら各自の思い出を掘り出す時間はなかったようである。しかし翌日に再訪問して、「当時、委員長を務めた時の記事を見つけた」との話を聞き、卒業生における資料室の存在価値の高さを感じた。東北

高校の体育館を通り機械工作の実習工場に入ると、「建物と旋盤は当時と同じだ」、「このバイトが重要だよな」など、各々が 40 年前の目の輝きに戻っていた。

懇親会は全員が揃って写真撮影をして、まず、佐藤光正先生からご挨拶を頂き、小川清先生の乾杯でスタートした。「チョーク 3 本で熱く講義頂いた小林巖先生の応用数学は印象強かった」と話す者、「我々の学生時代は高度成長時に入学し、卒業時にはオイルショックで就職活動が大変だった」と話す者、「就職して単身赴任 8 年を終えた時には、小学生だった子供が既に高校生になっていた」と話す者、いずれの話も忘れられない。極めつけは、「入社当時 50 名の会社で現在 5,000 名の会社となり、当時の打ち合わせは自分が相手企業に出向いて説明していたが、今は相手企業が自分の方に出向いて来るようになった。人生は不思議なものだ」と言いながら、親子 3 人で同じ会社に勤務しているという。

白髪や白髪交じりとなり、全員が気兼ねなく 40 年間の振り返る懇親会の雰囲気は、まだまだ続行の感があったので、應援團の古川隆君に「一丁締め」で中締めをしてもらった。その後も話が弾み、皆の和む姿を見て、世話係として今回も実施できて良かったと思った。

## 母校を訪ねる会に参加して

電気 25 回卒 原田 智

大きな傘をまず用意する。風呂敷には方眼ノート 3 冊、「母校を訪ねる会」開催要項、出席葉書のコピー、参加費の千円、デジタルカメラ。

車を駐車場に止め、郡山駅からのシャトルバスを選択。8 時にはすでに停車していた。日曜日で早朝のためか 10 分程で到着。70 号館を下見してから 62 号館に行く前に学生時代に大変お世話になった團室へ、アメフト部屋になっていた。

10 時の受付には早いと思ったが、すでに何人か来ていた。電気工学科の神永、小池、小林と話す。齋藤、岡本、金井、下田、高橋、田村、長場、裕嗣、穂積、堀、松本、機械の古川、舟木、建築の田口、勝呂と話した。電気の 13 名は磐梯熱海に前泊した。



受付後の写真撮影は、第15回の次で、当時と同じ写真屋さんだった。人数が多くてどこも空いておらず、左回りに一周し一番前の右端に中腰でいたが、わずかな隙間ができ、座ることができた。私はいつも運がよい。食堂は最初入り口近くの席にしたものの、電気の全員は座れない。さらに奥に移動し、なるべく多く座れるようにした。

懇親会は次第のとおり進行。活躍している先輩2人のうちの1人は長場昭衛さんで、前泊の話、写真を見て老けたと思う年代になった話であった。全学部唯一の応援団による校歌、応援歌、拍手等があった。太鼓は当時のままのようだが、学生服ではなかった!?

お開きの後、キャンパス散歩ツアーに参加した。岡本、神永、小池、小林らと一緒に、ロハスの家、花壇、橋、トイレ、校史資料室、9階展望台に案内された。

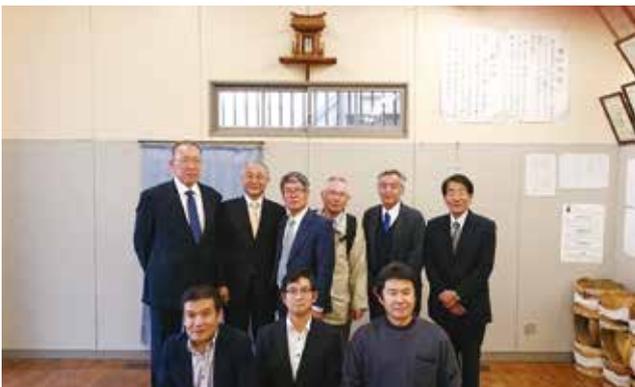
解散後は、郡山駅まで神永が3人を車で送ってくれた。お土産に、“ままだおる”を選ぶ。台風の中、長野、埼玉への帰路についた。10年後の母校を訪ねる会は70歳代。

## これからも永遠に ~立て打て勝て 勝利微笑む花の日大~

土木35回卒 三浦 直之

毎年、校友会誌に掲載される「母校を訪ねる会」の記事を観るたびに、いつかは参加したいと思いながら、卒業30年目に友人2人とようやく出席できました。残念ながら当日は、雨…念願の銅像前での記念撮影は叶わず。(同日開催の北桜祭スタッフも、雨の中お疲れさまでした)

一緒に参加した友人は、体育会「弓道部」第25代の同期です。わたしを含めて7名いる同期は、出身地も卒業後の勤務地も全国各地で、全員が集うことが近年ありませんでしたが、3年前に久しぶりに全員が揃い郡山市内で旧交を温めることが出来ました。50才を超えても馬鹿の言い合える友と昔話に花が咲き、話をするうちに徐々に昔の記憶が蘇ってくるのは不思議なものです。皆それぞれ人生色々あり、山も谷もある、そんなときこそ



話し相手になってくれる友人を持てたことは、大学生生活の大部分の時間を費やした部活動(勉学の次になかな…)ならではと今更ながらに感じます。これからも大事な相談相手としてヨロシク!

さて、「母校を訪ねる会」の方は、老若男女、家族連れが入り乱れて食堂いっぱいの人たちで懇親会が始まりました。友人たちと、昔の面影のある顔はないか探しますが、なかなか顔と名札の名前が一致しません。しかし、時間と共に誰とはなしに同期同学科の人たちが集い共通の知人の話題や近況を話すようになりました。今回参加して、年代を問わず交流するのも面白いですが、懇親会場の席を学科が同年代である程度分けて頂けると、もう少し交流しやすかったのではと感じました。

話は変わりますが、私の勤務する会社には、現在、土木部社員の約一割にあたる18名の工学部土木工学科の卒業生が在籍しています。同窓とは思議と何とはなしに繋がるもので、相談事や分からないことなど気軽に話せており、大変有難いことです。

大学には日大工学部生を各企業へ輩出して頂き、これからは助け合える同窓の輪が広がることを強く願っています。

## あれから30年! ~あの頃を思い出し、また頑張ろう~

建築35回卒 芳崎 一郎

毎年、送られてくる校友会会報の「母校を訪ねる会」関連記事を読むたびに、今度は我々の番だと思いつつ今回30年目にして母校訪問が実現しました。ほとんどの旧友とは年賀状での安否確認?程度でしたが、皆との連絡で何人かが集まりミニ同窓会をして「大学に集まろう」と声掛けをしてくれました。“あれから30年!”久しぶりに会った友はそれぞれ年相応の姿に変身していましたが、すぐに30年前にタイムスリップし、あの頃の仲間に戻っていました。集合は会前日の10月28日、郡山の天候は台風接近の大雨と強風のあいにくの天候でしたが、盃を交わせば学生当時の話題と若かりし頃の昔話で盛り上がりました。当時のように飲み過ぎ、半分記憶を失いながら「また、明日な!」という事で会を閉じ、29日の会当日を迎えました。台風一過でしたが、雨天強風は予想通りでした。しかし気分はノリノリで「いざ!母校、日大へ」と皆で談笑し、駅前からの北桜祭専用シャトルバスで母校に到着、正門から本館へ向かいながら、懐かしい変わらない景色に当時を思い出しました。北桜祭は雨天の為、来場者・学生の数も多くはなかったのですが一生懸命に模擬店の準備をしていました。会の受付を済ませ、また懐かしいメンバーと再会し、70号館内で記念撮影(雨天の為)をし、懇親会では楽しく語



り合えました。懇親会での応援団の演武は見事でした。懇親会終了後、今君、小林君、飯村君、五十嵐君、渡辺君、茶谷君の6名が帰る事になり、束の間の再会そして別れでしたが、同級生の存在の大切さを改めて実感しました。残った宮沢君、高橋君、鈴木恒行・順子夫妻と私は「校友会キャンパス散歩ツアー」に参加し、「ロハスの橋」「ロハスの家」「ロハスのトイレ」の各研究状況、70号館展望フロアからの郡山の景色、校史資料室等を巡り丁寧な説明をいただきました。その後、私は在学中4年間お世話になった武道館内の空手部の道場を訪問し、当時のまま掛けられておりました自分の名札に感動しました。最後に残った私を含む3名は次の日も大学内を散策し、お世話になった寮や下宿・アパートをうろついて、行きつけのお店を見て回りました。最後にこれだけはと学食でカレー・豚汁を食し、大学を後にしました。あっという間の3日間でしたが、旧友に再会でき、何かしらの元気とパワーをもらったような気がします。大分への帰り際、羽田空港、飛行機の中で日本大学のCMが流れていました。ふと「また10年後に会おう、それまで皆元気で、約束だぜ！」とつぶやきながら帰途につきました。私にとって「母校を訪ねる会」は素晴らしい会でした。今回、声掛けして参加してくれた旧友の皆さん、お世話いただきました大学・校友会の皆様改めて感謝申し上げます。これからも日本大学工学部と校友会の更なる発展を祈念いたします。本当にありがとうございました。

## 30年前にタイムスリップした2日間

機械 35 回卒 佐々木直栄

今回は、ホスト（日本大学工学部教員）として、体育会アメリカンフットボール部第14代の有志を母校に迎える初めての「母校を訪ねる会」になりました。

徳島から飛んで来てくれた藤原賢治君（建築 35 回卒？、現役時ランニングバック）が福島空港で借りたレンタカーに、豊田から電車を乗り継いで来てくれた隅川武史君（機械 35 回卒、現役時レシーバー）と共に乗り

込み、横浜中華街の味が自慢の「みかどチャイニーズレストラン」で昼食を済ませ、大阪から高速バスと新幹線を使い継いで来てくれた茶谷伸一君（建築 35 回卒、現役時ラインバック）を郡山駅東口で拾い、前夜祭の会場である磐梯熱海温泉の清稜山倶楽部に移動しました。

移動の途中は、30年前にタイムスリップしたように、昔話に花が咲き、耳鳴りしそうなくらいの大声で、笑い、語り合っていました。長岡から車で宿舎を直接訪れてくれた菅井洋一君（機械 35 回卒、現役時ライン）と駐車場で偶然遭遇、チェックインカウンターでは、赴任先の台湾から遥々来てくれた大平優君（機械 35 回卒、現役時レシーバー）が既にチェックインしていることを伝えられ、全員無事到着を確認することができました。

ゆっくりと温泉を楽しんだ後、ボリュームたっぷりの飲み放題付の夕食を平らげ、部屋に戻ってからは、移動途中に買い出ししたお酒とつまみで二次会を存分に楽しむことができました。私自身は二次会の後半の記憶が定かではありませんが、相当に盛り上がったものと推測しています。

翌朝、これまたボリュームたっぷりのバイキングを頂いてから、菅井洋一君を除く5名で日本大学工学部に移動し、「母校を訪ねる会」に参加しました。生憎の雨により、70号館エントランスでの記念撮影（第35回と第45回の合同写真）となりましたが、いつもと趣が違う写真もまた貴重な一枚になると確信しています。懇親会では、機械 35 回卒の大塚達郎君や田崎（旧姓篠崎）隆男君らとも徐々に再会し、再び30年前にタイムスリップしたような一時を過ごすことができました。

より多くの同期の仲間に10年後に再会できることを楽しみにして、これからも日々精進していきたいと思えます。



写真1 前夜祭  
（於 磐梯熱海清稜山倶楽部）  
前列向かって左から…  
藤原賢治（建築）  
菅井洋一（機械）  
大平 優（機械）  
後列向かって左から…  
茶谷伸一（建築）  
佐々木直栄（機械）  
隅川武史（機械）

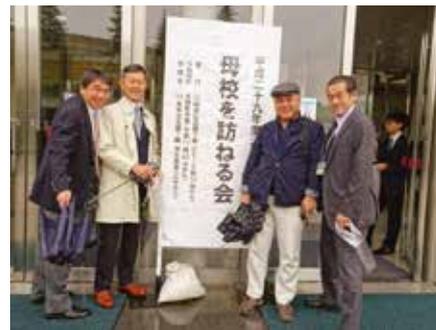


写真2  
母校を訪ねる会看板前  
向かって左から…  
隅川武史（機械）  
大平 優（機械）  
藤原賢治（建築）  
佐々木直栄（機械）

## 母校を訪ねる会に参加して

土木 45 回卒 林 将広



卒業から 20 年が経ち、「母校を訪ねる会」に初めて参加させて頂きました。「訪ねる会」に参加したきっかけとして、年賀状でやりとりをしていた同期生から連絡があり、みんなで参加しようということになりました。私に声をかけてくれた本人は、首都圏に迫っていた台風の影響で来られず、会うことはできませんでした…。

今回、久しぶりに郡山の地に足を運びました。卒業したのは、つい先日のような思いもありましたが、4 年間学んだ校舎を見て懐かしく感じました。集合写真を撮影した校舎は、在学中には建っておらず、また 4 年間栄養の蓄えの源であった食堂の建物もきれいになり、時代の流れを感じましたが、懇親会で提供いただいた「豚汁」は在学中を思い出しました。

当日は、あいにくの雨となり、学生時代に測量実習を行った構内の散策は出来ませんでした。お世話になった先生方や同年代の懐かしい学友と共に、近況や学生時代の話に花が咲き、有意義な時間が過ごせました。

私の近況報告とはなりますが、卒業後、土木関係（インフラ整備）の仕事に従事し、大学で学んだことを活かしながら、忙しい毎日を過ごしています。

20 年の間で変わったことといえば、世帯を持ち、2 人の娘に恵まれたことです。「訪ねる会」には娘と共に参加しました。当日は、学園祭の時期と重なったこともあり、学園祭やミニオープンキャンパスにも参加しました。ミニオープンキャンパスでは、娘は工学部ならではの「体験」をさせて頂き、とても満足していました。

懇親会の後は、郡山のソウルフードである「クリームボックス」を購入し、帰路につきました。

10 年後も是非、同期を集めて参加したいと思います。こうした機会を設けていただき、工学部校友会事務局の皆様へ感謝申し上げます。

## 母校を訪ねる会に参加して

電気 45 回卒 鈴木 英子

8 月、校友会から「母校を訪ねる会」の案内が届きました。

資格試験や洋弓部の総会等で大学を度々訪れていましたが、普段会えない仲間に出会える機会ですので、とても嬉しく思いました。

私はまず、洋弓部で一緒だった工化卒の松木加奈さん、建築卒の湊満美子さんに連絡をとりました。湊さんは京都府在住で残念ながら欠席となりました。その後、工化卒の山中みゆきさん、小林淳子さんと連絡がとれ、4 名で参加できることになりました。

母校を訪ねる会当日は、あいにくの雨でしたが、松木さん、山中さん、小林さんと 1 年ぶりの再会を喜びました。ハットNE では、長澤先生が受付に！懐かしく思い、お声をかけましたところ、今回の原稿を頼られました。先生が、私に原稿を頼んで後悔していないといいのですが。

受付後は茶道部の方から、お茶と和菓子で本格的なおもてなし。とてもおいしかったです。ありがとうございました。

お茶でくつろいだ後、70 号館に移動し写真撮影となりました。70 号館の入口で撮影待ちをしている時に知っている顔が！建築卒の中山くんです。中山くんは私の高校時代の友人の旦那さんです。嬉しくなって声をかけてしまいました。少し離れたところには、戦隊？レンジャー？あやしい人が！ネームを見ると同級生のようです。

写真撮影後、ハットNE に戻り懇親会です。すると、先ほどのレンジャーが！声をかけ 45 回卒メンバーでテーブルを囲みました。機械卒の細井くん、ステレンジャーこと原くん、建築卒の中山くん、工化卒の松木さん、山中さん、小林さんとお嬢さん、私の 8 人で、おいしい食事と楽しい会話。とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

今回、電気 45 回卒の参加者は私だけでしたので、10 年後は、みんなに会いたいです！

最後に、校友会の皆様、学校関係者の皆様、母校を訪ねる会にお招きいただき、ありがとうございました。



## 20回目の「桜三九会」同窓会

土木 16 回卒 高橋 迪夫

20 回目となる「桜三九会」同窓会が、恩師の村田吉晴先生、福井清先生にもご出席を頂き、平成 29 年 10 月 22 日(日)・23 日(月)に群馬県の伊香保温泉で 34 名（同伴者 4 名を含む）の参加のもとに盛大に開催されました。

「桜三九会」は昭和 39 年に土木工学科に入学した仲間の集まりで、平成 22 年までは、全国各地の持ち回りでほぼ 3 年ごとに同窓会を開催していましたが、15 回目の平成 24 年からは毎年開催されるようになり、今年で 20 回目の開催と回を重ねてきています。

当日は、台風 21 号が関東地方を直撃するというあいにくの悪天候でしたが、悪天候を理由としたキャンセルは 1 名もないという、いつもながらの結束力で、幹事の言う“篤い熱意”を持つ仲間たちの集まりとなりました。毎回出席の友、久し振りの友、大事な仕事を済ませて夜遅くにタクシーで駆けつけた友もあり、上州の名湯にゆっくりと浸かりながら、懇親会、2 次会、さらには 3 次会と深夜まで大いに話が弾みました。

平成 30 年の「桜三九会」同窓会は、毎年 10 月下旬の日曜日に開催されている「日本大学工学部母校を訪ねる会」に合わせて、その前日の土曜日に郡山市内で開催することが決まっています。工学部を卒業して早や 50 年、この記念の年にさらに多くの仲間が青春を謳歌した郡山で再会出来ることを、今から楽しみにしています。

なお、正式な開催日が決まりましたら、改めて「桜三九会」同窓会のご案内を皆様にお送り致します。



## 全日本大学アメリカンフットボール選手権

### 不死鳥の27年振りの快挙を讃えて

機械 35 回卒 佐々木直栄

(アメリカンフットボール部 第 14 代副主将)

試合終了のカウントダウンが聖地甲子園球場にこだまし、ついにその時が来た。

2017 年 12 月 17 日(日)、全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝（第 72 回甲子園ボウル）において、日本大学保健体育審議会アメリカンフットボール部（フェニックス）が 1990 年以來 27 年振り 21 回目の勝利をおさめ、大学日本一の王座を奪還した。

東日本代表の日本大学フェニックスが 3 年振り 34 回目の出場であるのに対して、対戦相手の西日本代表は、常連（2 年連続 51 回目の出場）の関西学院大学ファイターズである。伝統ある両校の対戦は、チームカラーの対比から、「宿命の赤と青」と称された。

この赤と青の宿命の対決が実現する度に、工学部体育会アメリカンフットボール部 OB 有志と共に駆けつけてきたが、近年 4 回の対戦では、何れも苦杯を喫し、特に 3 年前の対戦（10 対 55 の大差での敗戦）の印象が色濃く残っていたため、試合終了まで勝利の確信は持てない状態だった。

試合開始早々、味方の反則も手伝って、僅か 3 プレーで先制タッチダウンを許してしまった場面では、「またか…」という嫌な予感が脳裏をかすめたが、その後は多彩な相手オフェンスを良く凌ぎ、ランプレーを軸にして随所に効果的なパスプレーを交えたオフェンスが功を奏し、最終的には 27 対 17 で見事宿敵を退けた。

オフェンスを指揮した 1 年生クォーターバックの林大希が大会最優秀選手および年間最優秀選手（ミルズ杯）に選出された。新たな黄金時代の到来を予感させる嬉しい出来事であった。



赤の応援団

(左から、茶谷伸一、隅川武史、著者 撮影：藤原賢治)

## 支部活動

### 北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度の第 44 回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会は 4 月 28 日(金)にセンチュリーロイヤルホテル札幌にて 30 余名の参加者を得て開催しました。郡山より工学部校友会城座隆夫副会長と西園敏弘工学部次長のご臨席を賜りました。今回は、まず支部の総会、そして集合写真の撮影をして、懇親会へと進みました。

懇親会では、工学部の現状を西園工学部次長にご報告いただきました。工学部の就職率が薬学部をのぞき、再度、トップとなっている事が紹介され、入学者数も回復し、教育に充実できる等のお話をお聞かせ下さいました。我々卒業生からは、卒業生を就職させてほしいとの要望が西園工学部次長に多数寄せられたようです。

又、今回は釧路支部の濁沼氏、道南支部の中塚氏が出席され、それぞれの支部会の現況をお話しされました。また今年度、アカシア教育研究会の会長に就任された札幌の高崎氏からもお話をいただき、これから北海道出身の教職員にもっともっと教え子を郡山に送り、将来的には北海道に帰ってくるように指導したいとおっしゃっていました。又、来年皆様と元気いっぱい再会を誓い、日本大学の絆を、そして日本人の絆を深める一日となり、ご来賓の皆様方とともにすすきのでの二次会へと繰り出しました。30 年度は工学部北海道支部の総会及び懇親会に、地方支会の方々に参加できるように 4 月の第 3 週に行いたいと思います。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。



### 関東

土木 20 回卒 関東支部長 小林 啓一

関東支部は東京都、神奈川県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の 1 都 8 県で構成されています。うち 1 都 5 県に、東京都校友会、神奈川県校友会、埼玉県校友会、千葉県校友会、栃木県校友会、長野県校友会を設置しています。また、茨城県、群馬県、山梨県には各県担当者を置いて活動を行っております。

本年度の活動として、7 月に関東支部総会、11 月に栃木県校友会総会を開催いたしました。栃木県校友会総会には、出村克宣学部長、佐藤勉衆議院議員、福田富一栃木県知事、栃木県父母会、在校生が出席し盛大に行われました。来年度には、神奈川県校友会総会を予定しております。そのほかの活動として、4 月に工学部校友会総会、7 月に関東支部父母会、神奈川県校友会総会、11 月に日本大学校友会全国大会に出席し校友との絆を深めております。

今年度は箱根駅伝の応援には参加できませんでしたが、今後、箱根駅伝の参加が決まりましたら、大手町、横浜高島町交差点付近で箱根駅伝の応援を行いますので、校友の皆様の参加をお待ちしております。

最後に校友会の増々の発展と支部活動を活性化させるためにも、栃木県校友会総会で行ったような父母会、在校生を招待し、校友会への理解を深めることにより若い世代の校友会への参加が期待できると思われますので参考にしてください。

### 北陸

土木 31 回卒 北陸支部長 山本 久

校友会の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。平成 29 年度の北陸支部総会及び懇親会を、校友会中野伍朗会長のご臨席を賜り、新潟東映ホテルで 7 月 22 日(土)に開催し、約 40 名の会員が参加しました。懇親会には父母会の方々から 10 名参加され、学生活動及び就職活動の協力を校友会員に相談したり、和気藹々と有意義な懇親会を行うことができました。

また、9 月 9 日(土)には新潟紫雲ゴルフクラブにて懇親ゴルフコンペを行いました。現在支部会員は、約 200 名の方が登録されておりますが、支部活動に参加している方は、約 4 分の 1 です。今後の支部としての目標は、多くの会員から支部活動に参加してもらうためにはどうしたらよいかを考え、それを実行して活気ある支部を目指して取り組みたいと思っています。一人でも多くの会員から、支部活動に参加してもらえるよう、今後ともご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成 29 年度の東海支部の活動は、例年と変わりのない状況で、春に懇親ゴルフを開催しました。

また、7月28日(金)には名古屋東急ホテルにおいて40名の参加者で支部総会を開催いたしました。来賓として本部より4月に就任されました中野伍朗校友会会長と工学部より生命応用化学科の根本修克先生にご出席頂き、校友会及び工学部の近況報告をして頂きました。引き続き昨年度の会計報告、年間の支部活動報告等を行い、無事終了しました。

本年度の講演会は、ロンドンとリオのオリンピックに女子ホッケーの選手として出場された林なぎさ様(父が同窓の林誠氏です)をお願いしました。

試合に使う道具とオリンピックの写真を交えての講演で特に道具を使ってのお話では、同窓に手取り足取りの説明でみんながはしゃいでいました。



林さんが所属していた日本代表の女子ホッケーチームの名称が「さくらジャパン」と言うこともあり「日大と同じさくらじゃないか！これからは、大学にもお願いしてみんなで応援しなければいけません！！」と大盛り上がりそのまま懇親会へと突入しました。

林さんには懇親会にも、ご出席頂いたため興奮冷めやらない同窓が次から次へと色々な質問をして、ご迷惑をおかけしましたが、大変有意義で楽しい総会を行うことが出来ました。

林なぎささんには、感謝感謝です。

また、この総会には、4月に卒業したばかりの同窓が2名(男女各1名)参加してくれ、この二人も林さんに負けないくらい、先輩達が声をかけ人気者になっていました。

この若い同窓生達の意見を取り入れてもっと沢山の若い同窓生が参加できる支部にしていくよう努力して参ります。

12月1日には、ちょっと早めの忘年会を20名ほどで開催し、鬼が笑うけれどそのお店に来年の忘年会の予約をして、閉会しました。

校友皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。



### ●東東海支部(静岡アカシア会)総会

平成 29 年 7 月 29 日(土)、本年度の総会を三島プラザホテルにて開催いたしました。佐野寄武東海支部長の御尽力のもと、校友会中野伍朗会長、工学部土木工学科渡邊英彦教授をお迎えし、工科系校友会会長増井明弘様はじめ父母会を含む78名もの会員に出席を賜るとともに、若い会員の参加も増え、工学部躍進の姿がはっきりと見える有意義な会となりました。

### ●工学部 IN 静岡

平成 29 年 8 月 8 日(火)、静岡市内にて、静岡市役所アカシア会が中心となり、公務員講座と懇親会を開催し、公務員を目指す3年生以下の学生、男女33名が参加しました。学生達から積極的な質問を受け、懇親会では和気藹々とした雰囲気の中、本音の話をすることが出来ました。学生達から「今回学んだことを明日から早速取り組んでいきたいです」、「アカシア会の良い雰囲気がとても伝わりました」などの声が聞かれ、私達OBも後輩達の若さと情熱に触れて熱い気持ちと共により、母校との繋がりを再認識できました。

今後も、若きエンジニア達の模範となるべく技術の研鑽に励むとともに、後輩たちの進むべき道を照らしていけるよう、先輩方々に負けないように教員部会や父母会と手を携え努力していきたいと考えています。

最後に、今回このような会の開催にご理解とご協力を頂いた校友会の先輩方に、御礼申し上げます。



## 四国

建築 33 回卒 四国支部事務局長 藪内 清二



写真 1

平成 29 年度四国支部総会は、7 月 22 日(土)に校友会本部より城座隆夫副会長をお迎えして、徳島県より 2 名、愛媛県より 5 名、高知県より 1 名、香川県より 19 名、そして山口県より植田清美氏 (土木 21 回) の 28 名の出席により高松市の居酒屋「はんぶん」に於いて六車秀世四国支部長 (土木 16 回) の進行により開催されました。(写真 1)

四国支部では、四国内の交通の便が悪い事から各県校友会を設けて、きめ細やかな親睦を図っており、六車四国支部長出席のもと、愛媛県校友会を 10 月 21 日(土)に永井次郎会長 (建築 14 回) のもと、青木徹夫事務局長 (土木 21 回) の進行で、山田順氏 (建築 23 回) の乾杯の後、樽井巧氏 (建築 24 回) の先導で、校歌を歌い、和やかに会を終りました。(写真 2)

続いて徳島県校友会を 11 月 4 日(土)に丸浦誠事務局長 (建築 14 回) の進行で藤原賢治会長 (建築 36 回) を選任し、脇谷紀宏氏 (建築 14 回) の乾杯で懇親会を行いました。(写真 3)

今後、高知県と、春には家族会を兼ねた香川県校友会を予定しています。毎月第一木曜日の「一木会」も引き続き開催しておりますので、いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。



写真 2



写真 3

## 九州

土木 28 回卒 九州支部長 上田 勝



今年から支部長を仰せつかった上田と申します。平成 29 年 10 月 13 日に定例の支部総会を福岡市にある平和楼本店において開催しました。工学部校友会の城座隆夫副会長、本部校友会の山下功三理事、福岡県支部からも参加いただき約 30 名で 37 回目の会は大変盛況のうちに終えることが出来ました。もう少し時間があれば良いのという雰囲気でした。最近は参加者数も顔ぶれも毎年あまり変わらず、どうかしなければと考えてはいるものの、喉元過ぎればなんとやらで、きっと来年も同じなのかなと思ってしまいました。しかし、参加数があまり変わらないというのは良い意味でも悪い意味でも「安定している」ということで、九州から工学部に入学する学生が少なくなっている現状から考えれば健闘しているのかもしれませんが。九州支部では毎月第三木曜日の 18 時半より平和楼本店 3 階「てんじん」において「アカシヤ会」という定例会を開いております。参加不参加自由、出欠取らず代返不可? で当日その時間にならなければ誰が来て何人集まるのかもわからないミステリアスな会を開いております。この会は会員の情報交換にとても役立っており九州支部の原動力になっているようです。お時間があればその日その時間に「千円札 3 枚」持って寄ってみてください。必ず誰かいます。もっと寄り集まって活発な支部になればと思っています。

## 教員部会

工化 33 回卒 アカシア教育研究会事務局長代行 阿部 英敏



### ●本会会長に高崎 格氏 (建築 14 回) を選出

今年度より、5 つの支部の満場一致の推薦を受け高崎格先生が本会会長に就任されました。高崎会長は本会の前進アカシア教育研究会の設立時に、久保田幸正先生 (建築 19 回) らと共に多大な御尽力を頂きました。さらに、当部会北海道支部長として活発な活動をされ広い道内の校友教員をしっかりとめて頂きました。本年度は、高崎会長及び支部との強い絆で本会の規定の改定 (支部設立要項を含む) を行いました。

本年度の総会は、平成 29 年 9 月 29 日(金)に山形市において開催。校友会本部より田村賢一副会長、学部より佐藤公敏先生 (生命応用化学科) が出席。昨年度の活動報告、本年度の活動方針及び会計報告 (監査報告) を行いました。その後、懇親会で母校の様子や校友教員の近況を報告するなど懇親を深めました。

平成 29 年 3 月末に本会員の亀井雅秀先生 (機械 27 回) 富良野市立麓郷小・中学校校長、難波宏明先生 (電気 27 回) 岡山県立東岡山工高校長、豊島隆幸先生 (電気 27 回) 青森県立青森工高校長の 3 名が校長職で御退職されました。亀井先生は、自然の中で奮闘され当部会北海道支部の発展にご尽力頂きました。難波先生、豊島先生は、共に工業高校の教育の充実・発展に寄与され、平成 27 年度の本工学部の「校友校長の会」に校務御多忙の中出席頂き、母校への熱い思いを寄せて頂きました。

平成 29 年 4 月より宇佐見浩先生 (機械 30 回) が茨城県立水戸工高校長 (県立玉造工高校長より)、渋谷栄一先生 (工化 31 回) が福島県立郡山北工高校長 (県立喜多方桐桜高校長より)、千葉県立千葉工高校長鈴木賢二先生 (機械 28 回) が関東地区工業高等学校校長会会長に就任されました。

# 校友会組織

## ●新役員名簿

校友会新役員をご紹介します。(任期：平成 29 年 4 月 22 日より 3 年間)

役職	氏名	卒科・回
会長	中野 伍朗	化 16
副会長	城座 隆夫	機 21
	長澤 幸二	電 20
	水上 崇	建 22
	杉崎 一馬	土 26
	蔭山 寿一	建 28
	田村 賢一	機 30
幹事長	土方 吉雄	建 23
副幹事長	永田 直史	機 29

役職	氏名	卒科・回
常任幹事	田中 敏夫	建 19
	柳 啓	建 19
	土岐 悦雄	建 20
	久野 清	建 21
	秋葉 敬治	土 22
	古河 幸雄	土 23
	縫 裕訓	機 23
	五島 邦夫	機 23
	相原 茂	土 24
	菅家 和洋	土 24
	高橋 健二	土 24
	高橋 晃一	土 26
	田口 正英	建 26
	松崎 信一	建 29
	渡邊 英彦	土 30
	千代 貞雄	化 30
	柳沼由美子	化 30
	阿部 充宏	土 31
	松本 力	土 36
	山本 健史	建 37

役職	氏名	卒科・回
相談役	村田 吉晴	土 12
	渡澤 正典	建 14
	手塚 公敏	土 16
会計監査	小松 和幸	建 25
	小田 真司	土 34
	宗形 彰久	土 36
幹事	盛武 建二	土 17
	鈴木 廣	土 19
	木原 進	土 21
	佐藤 祐一	土 26
	西家 千尋	建 28
	吉田 靖博	土 30
	馬場 浩身	電 35
	田井 秀一	電 38
	佐久間 啓	機 40
	野内 英治	建 41
	児玉 大輔	化 41
	眞壁 知史	情 1
	大山 勝徳	情 5
	齋藤 義高	土 50



## ●卒業回早見表

回		卒業年 (3月)	
5 学科	情報	元号	西暦
1		昭和 28	1953
5		32	1957
10		37	1962
15		42	1967
20		47	1972
25		52	1977
30		57	1982
35		62	1987
40		平成 4	1992
45	1	9	1997
50	6	14	2002
55	11	19	2007
60	16	24	2012
65	21	29	2017

※ 5 年刻みです。

## 支部お問い合わせ先

- 北海道支部**  
 支部長 横関 一伸 (建 25)  
 北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9  
 (株)横関工業内  
 ☎011-831-6851
- 四国支部**  
 支部長 六車 秀世 (土 16)  
 香川県さぬき市志度1178-4  
 ☎087-894-1040
- 九州支部**  
 事務局長 脇山 亨治 (建 29)  
 福岡県福岡市博多区板付4-6-33  
 (株)北洋建設内  
 ☎092-589-0151
- 北陸支部**  
 支部長 山本 久 (土 31)  
 新潟県新潟市秋葉区横川浜518-12  
 ☎0250-38-4994
- 関東支部**  
 支部長 小林 啓一 (土 20)  
 神奈川県横浜市港北区  
 綱島上町1-1-4-822  
 ☎045-546-2647
- 東海支部**  
 事務局長 近藤 直幸 (土 28)  
 愛知県名古屋市中区志賀本通2-46  
 新晃コンサルタント(株)内  
 ☎052-911-1286
- 東東海支部**  
 支部長 大澤 俊幸 (土 27)  
 静岡県静岡市葵区長沼500-1  
 静岡県立科学技術高校内  
 ☎054-267-1100
- 教員部会**  
 事務局長 永田 進 (建 22)  
 静岡県焼津市本中根485-5  
 ☎054-623-5815

# 日本大学工学部が推進する産学官連携活動



日本大学工学部工学研究所次長  
機械工学科 教授 柿崎 隆夫

## はじめに

創設 70 周年を迎えた昨年(2019)の 10 月吉日、工学部では第 37 回母校を訪ねる会が開催され、200 名を超える校友の皆様が母校にお越し下さいました。皆様の中にはご多忙ゆえ卒業以来母校を訪ねる機会がないという方々も多いことと存じます。今回校友会様から、工学部の近況とりわけ産学官連携の現状についての記事依頼がありましたので、限りあるページ数の中で少しでもお伝えできればと存じます。

さて、大学では教育と研究が重要な柱であり、工学部の主な任務は「ロハスの工学」を核に、教育では社会で活躍し次世代を担う有為な専門家を輩出すること、研究では科学技術の進歩に寄与することです。研究における具体的な目標の一つは、研究成果を社会に還元(社会実装)することで地域や産業の活性化へ資することであり、今日の産学官連携(最近では金融も含め産学官金連携)の主眼ともなっています。本稿ではこうした背景を踏まえて、工学部の産学官連携状況を簡単にご紹介します。

## 各学科の取り組み

風化させてはならないのがあの 3.11 の震災です。被災県にある工学部は震災からすぐに復興へ向け様々な場面で活動してきました。そのことは工学部の記録として集大成されています。しかし復興はまだ道半ばであり、大玉村、郡山市、葛尾村(写真1)など県内自治体や住民との連携協働活動をはじめ、工学部の歩みは留まることはありません。さて、工学部には専門課程として、土木工学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、生命応用化学科および情報工学科の 6 学科があります。各学科では専門家となるために必須な専門基礎科目および

その仕上げとしての卒業研究を中心に、全教員が学生諸君と真剣勝負をしています。これと並行し、今後の研究活動への布石も着々と打たれています。

例えば、土木では橋や道路の長寿命化を含め、地域のインフラと環境を未来へどうつなげていくか、建築では震災以降特に住民のための地域コミュニティづくりをどう支援するか、機械では医工連携に加えて県や国が力を注ぐ再生可能エネルギーやロボット分野をどう強化するか、電気電子ではエネルギー、デバイス、メディカル応用などの学際分野の連携をどう強化するか、生命応用化学では力を注いできた生命工学や創薬分野での具体的な社会実装への道をどう固めるか。情報では最近注目している AI やクラウドそしてビッグデータなどを具体的にどのように地域産業へ生かしていくか、以上はあくまで一例ですが、ロハスの工学の理念の下、こうした課題へ果敢に挑戦しているのが現在の工学部です。

## 工学研究所の取り組み

工学部では出村克宣学部長を所長とする工学研究所が研究推進のかじ取りを担っています。その傘下には環境保全・共生共同研究センターや次世代工学技術研究センター(NEWCAT)が、またロハスの家を中心とした研究チーム、さらには廃校活用による我が国最大級の地中熱利用研究施設などがあり、それぞれ学科横断の体制で活発に研究を進めています。こうした取り組みが、一人当たりの科研費交付額は理工系三学部でトップ、さらに NEDO や文科省による競争的大型資金の獲得といった成果につながっています。

敷地内にあるインキュベーションセンターでは毎年企業の若手中堅技術者向けにマイスターズカレッジを開講しています。昨年度は地中熱利用技術、今年度はロボットシステム(写真2)について、それぞれ企業経験のある研究者が集中講座の講師を務めました。実学志向である講座は毎回企業の皆様にも大変に好評です。また、今年により広く工学部の研究を知って頂くため、工学部も



写真 1

葛尾村におけるドローン活用プロジェクトのスタート



写真 2

マイスターカレッジにおけるロボット技術の集中講座

のづくりアドバイザー制度を立ち上げました。このデータは「御用聞きできる研究者」として地域産業界へ公開しています。このカタログには研究者の専門分野や産学連携実績などが詳細に記載されています。

もう一つの目玉は工学研究所に9つの研究プロジェクト(表1)が発足したことです。眼目は、チームを組むこと、若手もリーダーに、そして何よりフットワーク軽く研究を展開することです。ものづくりの未来やロハスの工学教科書出版、さらには震災後に設立された産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所(FREA)との連携プロジェクトもあります。ぜひ注目して頂ければと思います。

さらに工学部の活動や成果を地域に知ってもらうことは重要であり、これにも力を入れています。産学官連携フォーラム、ロハスの工学シンポジウムそして学術研究報告会などは広く市民に公開され、再生可能エネルギー、ドローン活用そして健康長寿を目指すアクティブエイジング(写真3)など市民にも関心の高いテーマとともに、国内外から気鋭の研究者を招待しての講演、そして広く市民が参加できるイベントも実施しています。

### 校友の皆様とともに未来へ

大学を取り巻く状況は厳しいという報道が日々なされています。これは少子高齢化に伴う学生数の減少、グローバル化に伴う世界との競争激化など様々な要因によります。こうしたことから以前にも増して外部資金や競争的資金を研究者自らが獲得していく必要があり、工学部でもその努力を続けています。日本大学本部の支援による地中熱利用システムの社会実装活動では既に山形県の工学部校友の皆様と協力して頂いています(写真4)。ただしロハスの工学の体系化と社会実装はこれからが本当の勝負です。そこで一つ提案があります。それは従来の型にはまった公的資金ではなく、校友会の皆様にも小口のクラウドファンディング(不特定多数からの資金調達)を呼びかけ、そのご支援をもとに工学部発の成果をまずは校友の皆様へ、そして世の中へ製品やサービスとして提供していくことです。工学部発のこうした仕組みをご賛同頂けるよう、まずは皆様に向け一層開かれた工学部とすべく我々も努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



写真3

参加者全員「やきとりじいさん体操」でアクティブエイジングへ



写真4

山形県での地中熱利用の社会実装スタート(工学部校友の伊藤健登様ご夫妻ならびに伊藤彰様のご厚意による)

## 9つの『工学研究所プロジェクト』

今後、活動内容については工学研究所ホームページ等で紹介してまいります。<http://www.ce.nihon-u.ac.jp>

	メンバー	プロジェクト名
1	建築学科 教授 出村 克宣、他 14 名	ロハスのドローンプロジェクト (Drone Project for LOHAS Engineering)
2	電気電子工学科 教授 池田 正則、他 2 名	工学研究所半導体薄膜結晶性評価プロジェクト
3	生命応用化学科 教授 加藤 隆二、他 14 名	産総研福島再生可能エネルギー研究所・日本大学工学部連携推進プロジェクト
4	生命応用化学科 准教授 上野 俊吉、他 1 名	高次構造制御ロハスセラミックスの創製プロジェクト (Project for LOHAS Ceramics Development)
5	生命応用化学科 准教授 小林 厚志、他 4 名	生物境界面の機能工学プロジェクト (Project on Functional Engineering for Biological Boundary)
6	機械工学科 教授 柿崎 隆夫、他 8 名	ものづくり未来プロジェクト (Make Things Future R & D Project)
7	機械工学科 教授 武藤 伸洋、他 4 名	ロボットシステム基盤プロジェクト (Field and Life Robotic System Platform Project)
8	機械工学科 教授 長尾 光雄、他 1 名	2020 東京五輪・パラリンピック熱中症対策プロジェクト
9	土木工学科 教授 岩城 一郎、他 6 名	「ロハス工学」教育教材開発プロジェクト

表1

## 第60回日本大学工学部学術研究報告会

### 若き学兄へ



金沢工業大学名誉教授  
建築 18 回卒 浦 憲親

校友会から、学術研究報告会での発表について感想原稿を依頼されたのですが、改めて考えると学会発表のように何かを調べ纏めるものと異なり不慣れのため十分に意を尽くしたものになっていないことをおゆるし下さい。

報告会は質疑時間も多いため、素朴に『なんでなの』の説明を受けられるので新しい研究の発想にも繋がると考えている。残念なのは、異分野の発表になると聴講者の多くが院生であるためか退室することで、学生諸君は他分野の知識を得る折角の機会を放棄している事である。発表、研究は重要であるが、もっと広い視野を持つ学生の育成と学内に集め滞留させる工夫不足に加え、発表者および聴講者への取組も十年一日では報告会も形式のみになると考える。方策の一つとして校友会が休憩所を出しているが、全科発表後にビュッフェ形式の茶話会もいいのではなからうか。

報告会には何時から参加したのか定かでないが、少なくとも20年以上前から職務の都合で欠席もある。関係資料は平成29年3月致仕した際に全て廃棄したので分からないが、一年の締めくくりとして参加させて頂いている。その内容は年度によって異なるが、質疑されることで研究の不備や改善点、あるいは展開方法を見つめ直す有意義な機会に位置付けている。ただ、最近是他学部からの発表者が少なくなっていることが残念で、背景にあるのは論文の評価が小さいことも院生主体になっているのかもしれない。しかし、原稿は1~4枚以内であれば一人何編書いてもよく、これほど融通の利く都合のよい発表会はない。

若い校友は社会人になった際、現場での課題を卒業担当教員指導の下で纏め発表することで聴講の院生および学部生が刺激を受けることも報告会への参加に繋がり、在学時は卒業生の学ぶ姿勢を見ることで高い志を持つようになると思う。また、校友会は大学と意思の疎通をはかりながら今後も交通費等の支援が活性化に必要と言える。

工学部の発展は校友しか成し得ないと思うが、如何か。  
合掌

### 私にとっての学術研究報告会



山形県立米沢工業高等学校教諭  
建築 45 回卒 油井 敏和

校友会の皆様におかれましては全国各地で御活躍のことと思います。母校では毎年12月に学術研究報告会が開催されています。私は、5年前に校友会教員部会（通称アカシア教育研究会）事務局長の永田進先生にお誘い頂き、参加しています。

この報告会は、各分科会で日本大学教職員（非常勤講師・退職者含む）、日本大学大学院生・研究生・校友が日頃の研究の成果を発表します。様々な報告を伺うことで、母校の研究する力の高さや物事への新しい視点を見つめることができます。私は、「教育に関する部会」に参加しています。母校の先生方の報告では、学生の意欲を高め、知識を確実に定着させるための研究結果の報告や、「新エネルギーコンテスト」を企業と連携し継続して実施し、発想力、表現力を高める取り組みなどを伺いました。母校の先生方が、学生に対し熱心で工夫された取り組みをされていることに感銘を受けました。私は、高校の教育課程の編成やクラス経営及び研修成果などを報告させて頂きました。

この報告会は、母校の多くの先生方、教職課程の学生、校友の教員の皆さんが参加し、お互いの情報交換ができる貴重な場でもあります。母校の先生方から近況や、勤務校から進学した学生の様子を伺うことができます。また、来春入学予定の教え子について、先生方へ御礼と今後のお願ひもします。私達もこの機会に、教え子達と顔を合わせ、学生生活の様子や卒業後の進路希望などを話し、励ましています。

この報告会をきっかけに、全国で教員として活躍する校友の皆さんと交流を深めることができました。全国、都道府県の工業教育のリーダとして活躍する先輩方からご指導を頂いています。また、全国各地の教育現場で情熱あふれる教育活動を実践されている若手教員からも刺激を受けています。この報告会に、校友の皆様からも気軽に参加して頂き、母校の様子を見に来て頂けると幸いです。



# 校友レポート

## ～MEを目指す仲間たちへ～



埼玉医科大学国際医療センター

救命救急科 助教

土木 51 回卒 猿田 高志

皆さんこんにちは。この度は校友レポートで若輩者の私に、このような場を設けていただいたことは大変嬉しく、そして光栄なことだと思っております。有難うございます。

私は平成 15 年に土木工学科を卒業いたしました。在学中に進路変更を思い立ち、同科卒業後に日本大学医学部を再受験し、平成 25 年に卒業いたしました。現在は大学病院の救命救急センターで勤務しております。

救命救急センターは、臨床工学技士（以後、ME：Medical Engineer）と深い関りがあります。ME は生命維持装置や人工透析装置などの医療機器を操作し、また機器の保守・点検などを日常業務として行っております。機器の特徴としては『臓器を休ませる』ことです。皆さんも疲れた時は自分のベッドで寝たりしませんか。臓器も同様です。急性心筋梗塞で心臓が疲れているとき、重症肺炎で肺が疲れているときなどは、人工心肺を用いて心臓や肺を休ませます。人工呼吸器も肺を休ませてくれる機器の一つです。また、急性腎不全で尿が出にくくなったとき、腎臓を休ませる機器は人工透析です。これらは救命救急センターが日常的に使用する機器ですが、医師や看護師だけでは扱えないため、ME の協力が必要となります。医療機器の専門家それが ME なのです。それ以外にも、『臓器（命）を助ける』役割をもつ機器もあります。心停止を来した際に使用する除細動器や不整脈を予防するペースメーカーなどはそれにあたります。定期的に ME がチェックをすることで患者さんは安心して生活を送れるのです。

このように、現代の医療には精密機器が必要不可欠で、手術も機械が行うような時代です。それぞれの専門家がそれぞれの立場で知識を出し合い、医療を実践しなくては今後の発展はないと思っています。そのために、臨床工学技士課程を選択された方々には大いに期待をしております。学生生活を謳歌し、臨床現場で一緒に仕事が出来る日を心待ちにしております。



※私が寝ており白衣を着ているのが臨床工学技士の小野塚さんです（写真掲載について本人の同意済）小野塚さんも、学部は異なりますが日本大学の卒業生です。

# 若葉マーク 頑張り記

## バイオマスによる循環型社会を目指して



SAISEI 合同会社

機械 62 回卒 矢代 光

私は福島県双葉郡楢葉町で育ち、大学卒業後は原発関係の仕事に就いて地元へ貢献しようと思い、日本大学工学部に入学しました。しかし新学期を目前に控えた 2011 年 3 月に東日本大震災が起き、原発事故の影響で避難生活が始まりました。避難生活、その後の生活で自分や日本の将来などを考え、エネルギーの大切さを痛感しました。原発事故に遭った福島だからこそ、新エネルギーの開発を進めるべきではないかと考えていたとき、ロハスの研究をしている機械工学科の創成学研究室に出会います。その研究テーマである地中熱に魅力を感じました。地中熱とは、地中の夏は外気より冷たく、冬は外気より暖かい地中の性質を利用した再生可能エネルギーです。地中熱を利用すれば少しでも電気を節約できるのではないかと。私は大学卒業後も大学院に残り、地中熱の研究を続けました。しかしまた新たな出会いがありました。

それは現在の私の仕事である「バイオマス（生物的资源）」です。弊社では各地域にある有機性廃棄物を活用し、再生エネルギー化（エネルギー・肥料）の自立をすること、農作物生産の自立化を目指しています。そこで母校である日本大学工学部、郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターの協力のもと約 6 年間にわたってメタン発酵の開発を実施し、MBES（Mini Biomass Ecology System）バイオガス装置を商品化することができました。また、バイオガス装置を利用した食品リサイクル・ループ事業を福島県より委託を受け、福島県川内村で実施しています。実際に村内から集めた食品残渣を MBES でメタン発酵させ、再生エネルギー化しています。また作った肥料は地元の農家さんに使っていただき農作物は問題なく生育しています。このように弊社では大規模な装置ではなく、各地域に対応するパッケージ型の装置で農村部と都市部から出る食品残渣を活用し農作物を作り、この農作物を都市部で消費する。こうした循環型社会を目指して日々奮闘しています。ぜひ御賛同していただける校友の皆様がいらっしゃいましたらお力添えを賜りたく存じます。



## ●工学部平成30年度オープンキャンパス予定

開催日	名称	主な対象
7月16日(月)祝	保護者向け大学見学会 2018	高校生の父母、高校教諭
8月4日(土)、5日(日)	オープンキャンパス 2018	高校生及び保護者
9月2日(日)	受験生のためのオープンキャンパス 2018	平成31年度入試受験生
10月27日(土)、28日(日)	ミニオープンキャンパス 2018	小中学生及び保護者

## ●平成29年度 課外活動結果一覧

サークル名	大会名	結果	詳細
バドミントン部	第107回福島県学生バドミントン選手権大会	2位	女子団体
		3位	男子団体
	第108回福島県学生バドミントン選手権大会	2位	男子ダブルス 二村 悠暉 千本松 啓介
		2位	女子ダブルス 沼倉 樹奈 藤田 優花
		ベスト4	男子シングルス 千本松 啓介
		ベスト4	女子シングルス 藤田 優花
平成29年度日本大学体育大会	1位	男子団体	
	3位	女子団体	
射撃部	第70回福島県総合体育大会	2位	10mS60M 須藤 和輝
	第39回東北三県対抗ライフル射撃選手権大会	3位	10mS60W 須藤 和輝
	第35回東北ライフル射撃選手権大会	2位	10mARS60M 平石 慶介
		3位	10mARS60M 須藤 和輝
弓道部	第56回東北学生弓道大会男子の部	優勝	団体
	第70回福島県総合体育大会	2位	男子個人(遠的) 荒木田 優哉
	第65回全日本学生弓道選手権大会個人戦東北地区予選会及び第12回東北地区学生弓道選手権大会	優勝	荒木田 優哉
		優勝	大村 梨恵
	第13回福島県学生弓道選手権大会	1位	男子団体
		1位	女子団体
	第63回東西学生弓道選抜対抗試合	東軍優勝	荒木田 優哉 (東北代表として東軍に参加)
	第47回東北地区秋季女子学生弓道大会三部リーグ	優勝	女子団体
1位		鈴木 真穂	
第43回東北地区記録会	2位	荒木田 優哉	
	連中賞	荒木田 優哉	
卓球部	平成29年度東北学生卓球連盟春季リーグ戦及び第87回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)	3位	団体の部3部
	平成29年度日本大学体育大会	3位	女子シングルス 白旗 彩
	平成29年度東北学生卓球連盟秋季リーグ戦及び第84回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)予選大会	ブロック通過	男子個人の部 和久井 亘 (全国大会出場)
		Ⅱ部ブロック2位	男子団体
洋弓部	第49回東北学生アーチェリー王座決定戦	3位	団体
陸上競技部	平成29年度日本大学体育大会	2位	男子4×100mR
	第72回福島県陸上競技選手権大会 兼第70回福島県総合体育大会県南地区予選	1位	男子200m 吉津 凜
		1位	男子走り幅跳び 藤原 海希
	第41回常葉ビートル駅伝大会	2位	男子400m 影山 大晃
	2位	区間賞3名	
バレーボール部	平成29年度日本大学体育大会	3位	
水泳部	福島県大学対抗春季水泳大会(春の五大戦) [大沢杯争奪戦]	3位	総合
ソフトテニス部	平成29年度日本大学体育大会	3位	団体
	平成29年度夏季ソフトテニス選手権大会	準優勝	一般男子ダブルス 小川 優人 (全国大会出場)
剣道部	平成29年度日本大学体育大会	3位	団体
柔道部	第58回全日本理工科学生柔道優勝大会	ベスト4	団体

## ●工学部スクールバスへの補助金

工学部スクールバス購入資金の一部として、100万円の援助を行いました。



## ●日本大学工学部校友会 会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略 平成29年2月1日～平成30年1月31日)

### ●64回卒

生命応用 佐藤佳代子

### ●65回卒

土 木 建 築	今泉 潤	機 械	斎藤 雅史	生 命 応 用	桑折 涼
	鷗沼 隼也		柴田 紘応		長鈴 知樹
	梶本 陽介		新開 脩人		畠山 将貴
	木村 健人		高比良聖人		内田 翔
	鈴木 英文		中澤 翔陽		大山 陽
	西山 翔悟		前野 龍一		小野 智央
	夏野 公希		山田 悠人		柿沼 翔太
	石川 真希		山中 宏樹		菅野 瑞貴
	佐々木啓介		吉井 裕亮		酒井 寿
	佐藤 桂輔		花澤 義祥		土屋 尚暉
茂木 佑介	川又 修	秦 寛旺			
山口 亮人	齊藤 祐貴	三森 敬介			
和田 広道	高柳 裕紀	宮川 朋子			
小池 雄紀	森田 将孝	渡辺 健斗			
	中村 浩志	大西 翔			

## ●課外活動への支援

以下の19団体に課外活動支援金の援助を行いました。

体 育 会	アメリカンフットボール部	柔道部
	弓道部	水泳部
	剣道部	ソフトテニス部
	硬式ソフトボール部	日本拳法部
	硬式庭球部	ハンドボール部
	硬式野球部	ラグビー部
	サッカー部	ラクロス部
学 文 連	管弦楽部	鐵道研究会
	写真部	美術部
	赤十字奉仕団	



## ●支援一覧

校友会では以下の支援を行っております。

項 目	内 容
就学支援	経済的理由で就学困難となった学生への経済的支援（給付型奨学金）
電気主任技術者国家試験対策講座	電気電子工学科の学生を対象に開講（校友会役員が講師を担当）
就職指導課との就職対策	就職指導課との連携で学生向けに校友企業の求人情報を提供
北桜祭実行委員会への支援	北桜祭来場者に配布する「お菓子」の提供
学術研究報告会「発表支援金」	学術研究報告会にて発表を行う校友に対して「発表支援金」を支援
学術研究報告会「喫茶コーナー」の設置	学術研究報告会来場者にコーヒーを提供
記念品の贈呈	入学生、卒業生それぞれに記念品を贈呈
卒業記念パーティーへの補助	毎年3月25日開催の工学部卒業記念パーティーへの補助

## ●校友会賞受賞者

平成29年3月25日(土)に開催された日本大学工学部卒業記念パーティーにて以下の3名に校友会賞の授与を行いました。

- 高畑 昌美 (土木) 体育会第47代委員長
- 吉田 拓弥 (生応) 第65回北桜祭実行委員会委員長
- 畠山 将貴 (生応) 応援団第60代団長

## ●住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報お願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

## ●校友会ホームページについてのお知らせ

平成30年3月よりホームページ上で校友会報が創刊号から第81号までご覧いただけるようになりました。当時の会報から、それぞれの学生時代に思いを馳せていただけたら幸いです。

日本大学工学部校友会員各位

平成 30 年 3 月 1 日  
校友会会長 中野 伍朗

## 平成 30 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 30 年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

### 記

1. 日 時／平成 30 年 4 月 21 日(土) 13 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館 3 F
3. 議 題／(1) 平成 29 年度会務報告および決算報告  
(2) 平成 30 年度事業計画および予算審議  
(3) その他
4. 工学部校友会 (60 周年) 懇親会／15 時より同会場 2 F

## 第 38 回 母校を訪ねる会

日 時／平成 30 年 10 月 28 日(日)  
場 所／日本大学工学部 50 周年記念館を予定  
対 象／第 16 回卒業生 (昭和 43 年 3 月卒業)  
第 26 回卒業生 (昭和 53 年 3 月卒業)  
第 36 回卒業生 (昭和 63 年 3 月卒業)  
第 46 回卒業生 (平成 10 年 3 月卒業)  
第 56 回卒業生 (平成 20 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となります。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第 68 回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会に御一報下さい。出来る限り応援いたします。

**卒業後 50 年以上の方、対象年度外の方もご参加いただけます。**

表紙について



古橋 栄吉 さん

校友会報第 81 号発行に際し、建築学科 8 回卒の古橋 栄吉さん (郡山市在住) の御協力をいただき、氏が日頃から描き貯めた「花や果樹の水彩スケッチ画」を表紙・他頁に掲載させていただきました。深く感謝申し上げます。

## 校友会報 第 81 号

発 行 者 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327  
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp  
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発行部数 51,500 部  
発行日 平成 30 年 3 月 1 日  
発行責任者 校友会会長 中野 伍朗  
編集責任者 広報委員長 千代 貞雄